ISSN 1344-4689

埼玉県大学・短期大学図書館協議会

SALA

Saitama Academic Library Association

No.9
2001.3.31

会　報

本のはなしを少し

代表幹事館
東京国際大学図書館長　川嶋行彦

ふしぎなことに本屋に行くとオナラが出る。もうずっと以前からだから私は気にしないが、運悪くそばに近づいた人にとっては大いに迷惑にちがいない。新刊本よりは古書の棚の前でとくに頻度がはげしいようだ。聞くところによればみんな黙っているがあんがい同好の士がいるらしい。それも一様にスカであるところが始末に悪い。古本屋のオヤジに苦虫を噛みつぶしたようなタイプが多いのも、なにも不景気なせいばかりではないだろう。ここだけのはなしだが、若い女性の間でひそかに書店が便秘の特効薬とささやかれているのをご存じだろうか。

学生時代に、神田と早稲田と本郷を文字どおり下駄をならして古本屋のはしごをしたのが懐かしい。当時、ボサボサ頭で難しそうな本を小脇に抱えて難しそうな顔をしているのがちょっとカッコイイ時代だったのだ。いま思えばよくあんなに長い距離を歩けたものだと思うが、まだ空き地も多く本郷から新宿が見通せたので古本街の三角地帯は指呼の間にあった。わが頭髪と比例して少なくなったとはいえ、まだまだこれだけの古書店が寄り集まっているのは世界中どこを探してもない。が、最近とんでもないところに強敵が現れた。ネット・ショップとやらいう奴である。パウェルズで梯子をかけて天井近くのお目当ての本を手にとってほこりを払ってプッが、アマゾン・ドット・コム、パウェルズ・ドット・コムでは屁もでやしない。

私がいまお世話になっている大学の図書館でも、ご多分に漏れずにIT革命のまっ最中である。「このまま蔵書や雑誌のバックナンバーが増え続ければパンクします。」「いやごもっとも」「継続図書の予算はもうパンクしました。」「そいつぁこまった」「欧文の雑誌はインターネットを利用してください。」「ハイハイ」「統計データはCD－ROMにしてください。」「ハイハイ」「いや、そうじゃあなくてデータ・ベースからダウン・ロードしてください。」「ハイハイ」「古書は大英図書館にリンクしてください。」「オイオイ冗談じゃあないよ、和書はどうなるんだ」「神田に行って下さい。」「なにいってやがる、こちとら神田の生まれよ。いや目白でした、ハイ」

そもそも溢れるような情報の価値は限りなくゼロに近づくとエントロピーの法則はおっしゃる。いまどきの本や雑誌、お墨付きのデータなんぞ十年もすればあらかたゴミでしかない。それでは図書館はゴミの山だとでもいうのだろうか。然り、わが書斎を見よ、だが決して掃除をしてはいけない。大いなる宝が潜んでいることを忘れてもらっては困る。ドーフマンの蔵書の隙間から、ウェッブ夫妻からウェブレンに宛てた手紙がぽろりと出てくる。ヒュームのコレクションに自筆のノートがさりげなく置かれていることもあるのだ。夜明けに霜の降る音が聞こえるごとく、すなわち水蒸気を含んだ空気から微小な氷の結晶が析出するように、百年、千年の単位で時間の逆転現象がゴミをダイヤモンドに変質させる。ここではエントロピーの法則は働かない。

それにしてもアレキサンドリアのムセイオン大図書館が炎上したのは惜しかった。七百年の幕を閉じたのは西暦およそ四百年のことだとされている。デジタル化、サイバー化された今様の図書館は大丈夫だろうか。情報のメモリーが電子的な磁性に依存しているとすれば、四百年後、七百年後に地磁気が反転したりコロナの大爆発ですべてのメモリーが飛んでしまうかもしれない。最近手に入れたシュメール後期の円筒印象に彫られた楔形文字を指でなぞりながらふと考えた・・・。イヤー図書館は楽しい。ついに時間の呪縛から逃れられたぞ。以上本に巣くう黄色いシミの独り言でした。

図書館の機能が社会に求められている

元専修大学教授
森　崎　震　二

この頃、公共図書館に対する批判が雑誌などに文化人から展開された。ベストセラーばかりが沢山購入され、貸し出しされていて、本当に欲しい本がないという類の批判である。一部該当するところもあろうか。佐野真一（プレジデント2月号）林望（文芸春秋12月）などの批判である。そのような批判に対する論理上の反論と私が思うのは中央公論99年8月号の菅谷明子論文や細川珠生論文であり、単行本では辻由美「図書館であそぼう」（講談社現代新書）等である。

図書館の仕事とは人の暮らしの記録をキープしていて、誰でもが必要な時に出きるだけ即座にそれを見ることの出来るための営みである。そのデータが人の個人生活を支える。だから世の中の社会的な機能が進めば進むほど、図書館機能は一般の人から求められる率が高まってゆく。これが人間の一般的な生活上の傾向、法則である。この中には当然、民主主義的な自由が含まれ、それが基盤となっている。

12世紀頃までは、世界中は王侯貴族と僧侶だけが、中世になって大学が出来てからは教授連中と大学生が、先例を様々に知るために、記録を捜し求めて、自分の仕事の中に生かし、それをまとめ、その結果を再び書き記して、後世に伝えた。これらの記録は循環して人間の感性を豊かにし、知識と理性を深め、見識を拡げてゆく基礎となった。これはいわば静的な図書館像であろう。

元来の図書館員の専門性と言われる、整理の技能と奉仕作業はこの間の長年の伝統的蓄積に基づくものである。わが国では後者の奉仕が極端に立ち遅れ、資料の貸出しなどは極めて特殊なことであった。原因は新聞条例や治安維持法などによる思想弾圧の結果である。

この点、戦後に図書館員自らが「図書館の自由」を宣言して、やっと資料を直接に読者のもとに届けることをその任務にして一世代たった。その間、関係者の並々でない努力の結果、世界並みになるのは1970年以降、僅か30年ほど前のことに過ぎない。やっと図書館活用の前提が確立し始めたところで、まだ全国的に普及したとは言えない。日本図書館協会の発表によると先日やっと全国自治体数の50％に図書館が設置されたという。

今、コンピュータ時代を迎えて、テーマに応じて資料を駆使できる図書館員の存在が求められている。折から、小中学校の分野でも「総合的学習」が展開される。教員室でも困っているようだが、大きなテーマは学校で決めても、問題を選び、調べるのは生徒自身で、教員はそれを援助する。その時使う資料が学校図書館や公立図書館から提供されなければ学習は進まない。公共図書館にとってもこれは大変なことである。基本は利用者個人に対応できるだけの資料費の用意と動的な図書館サービスを確実に実行する職員にある。

第13回総会講演風景

第12回実務担当者研修会
テーマ：図書館利用に関する今日的課題

昨年11月28日(火)、早稲田大学所沢キャンパスにおいて、図書館利用に関する今日的課題をテーマに、第12回の実務担当者研修会が開催されました。

今回の研修会では、これからの利用者サービスのあり方や実務担当者の抱える身近な問題をテーマとし、参加者からの事例報告や意見、情報交換を行い、自館での利用者サービスの向上に繋がることを研修の目的としました。30名の参加者がありました。

研修会は、SALA代表幹事館の東京国際大学図書館中西康幸氏の挨拶、会場館の早稲田大学図書館事務部長大塚栄吉氏の挨拶で始まりました。続いて、獨協大学図書館の藤巻淑子氏から「大学図書館における相互協力と最近の動向―ネットワークを中心として―」と題した講演がありました。各種資料を用意しての講演でいろいろ参考になったことと思います。休憩をはさみ、二つの分科会に分かれ、第1分科会では「相互利用」、第2分科会では「利用者マナー」をテーマに事例発表、討議等が活発に行われました。その後、早稲田大学所沢図書館の見学、早稲田大学生協食堂の山小屋風の部屋での懇親会がありました。

講演と分科会の内容は以下のとおりです。

講　演：大学図書館における相互協力と最近の動向
―ネットワークを中心として―
講　師：獨協大学図書館　藤巻淑子氏

1.　相互協力とは

(1) 目的

1) 各館の事情を考え、お互いに補い合う。

2) 資料、活動にかかわる経費の重複を防ぐ。

近年、社会における情報量が増大する一方で、雑誌の高騰や大学の財政の影響により、これまで購入してきた資料が、1つの図書館で、入手が困難になってきている。そのため、利用者からのさまざまな要求に応えることができなくなりつつある。このような状況では、相互協力の特性を生かすことで、利用者へのサービスの充実を行うことが必要となっている。

(2) 理念

1) 相互に援助し合う。

2) 資源共有

まず、相互に援助し合うこと。たとえば、依頼館は、相手館の負担を軽くする配慮を心掛けたり、依頼するときに資料の書誌事項に注意を払うことによって、不必要な時間をかけない、などが考えられる。また、資源を共有するということ。依頼館は、入手困難な資料を依頼してくるので、なるたけ依頼に応じるなど。

各機関が所蔵している資料をお互いに提供し合うことによって、資源共有システムが成り立つ。

設置母体や規模が異なる図書館間で、円滑な相互協力を行うためには、相互協力に対する共通の理念が大切になってくる。

(3) 範囲

一般的に1つの大学内の本館、分館や学部図書室などの連携を意味するのでなく、他大学との図書館と協定を結び、他大学の図書館との協力活動を行うことを示す。

(4) 対象

1) パブリックサービス

閲覧・レファレンス・文献複写・相互貸借

閲覧では、事前連絡、所属大学図書館の紹介状が必要になる。また、相互貸借では、所属大学図書館を通じて貸出が可能となる。借り受けた資料は館内利用。NACSIS-CATやインターネットによる各機関のOPACの公開により所在情報が充実し、ILL（Interlibrary　Loan）が盛んになっている。

2) テクニカルサービス

分担目録

OCLCやNACSIS-CATは、分担目録システムの代表的なもの。各機関で目録データベースを構築することによって、最終的には、総合目録を形成することになる。ILL（Interlibrary　Loan）が行われるためのベースとなっている。

3) 管理・運営

資源共同利用

CD-ROM、オンライン・データベース、インタ

講演風景

ーネットを通じた、図書以外の資料による情報提供が進んでいる。今後は資料の高騰や、大学の財政面などから、複数の機関が共同契約し、同時アクセスが可能な利点を生かした、電子ジャーナル、e-bookやオンライン・データベースなどの共同利用が考えられる。

2. 相互協力におけるガイドライン

(1) 国公私立大学図書館間相互貸借に関する協定

この協定は2000年10月12日、国公私立大学図書館協力委員会の会議にて承認されたもの。

現状の国公私立大学図書館間文献複写に関する協定（昭和62年2月から実施）に、現物貸借も含めた範囲を含むとしたものである。また、協定の対象を、大学共同利用機関、短期大学、高等専門学校等の図書館および、海外の大学図書館等も含めるということを踏まえた内容のものであるとしている。

(2) アメリカ図書館協会相互貸借規定（1993年）

“National Interlibrary Loan Code for the United States 1993”

アメリカ図書館協会相互貸借規定（1993年）は、図書館の資料貸借を調整するために作られたものであり、図書館間での資料の貸借依頼と受付の一般的なガイドラインを定めている。

序文には、「良質なサービスを提供するためにまず必要なことは、利用者が必要としている情報が、地域性や財源上の理由によって得られない場合に、最終的に利用者がその資料を手に入れられるように図書館が入手についての責任を持つことである。」として、図書館は、利用者が必要な資料を入手するための責任があることを述べている。

さらに、依頼館の責任や、受付館の責任が具体的に定められている。たとえば、依頼では、特定の図書館にリクエストが集中して、負担をかけるのを避けるべきであることや、返却期限を守ることなど。また、受付では、謝絶や更新のリクエストに即座に返答することなどである。

この規定には、特定の図書館に依頼が集中し負担がかからないよう、相手館に対して配慮し、お互いに助け合うという考え方が細かく規定されている。このような規定を参考にすると、借り受けた資料を大切に扱うことや、相手館に迷惑にならないよう心がけることなど、共通認識が具体的に得られるのではないかと思われる。

3. 事例報告

(1) 多摩アカデミック・コンソーシアム

1）特徴

- 学生証による利用
- 貸出
- 加盟館を定期的に巡回する定期便(TAC便)の運行
- 加盟館のホームページに他の加盟館のOPACがリンクされている。

2）うまくいっている理由

- 加盟館が、単科大学で、規模がほぼ同じであること。
- 共通の認識に基づいた大学間の緊密な関係を確立している。
- 図書館の相互協力にとどまらず大学全体のネットワークの一環として位置付けられている。
- 学内上層部が協定の設立準備会議に参加し、その後もネットワークに係わりを持つ定例会議が開催されている。
- 図書館部会、企画調整部会、広報部会、教育交流部会などワーキンググループが活発でネットワーク間の問題点を絶えず改善している。
- 加盟館の研修会が盛んで、参加館の館員相互の交流が盛んである。

(2) 山手線沿線私立大学図書館コンソーシアム

1）特徴

- 加盟館内での利用証による閲覧
- 加盟館共通のOPACによる横断検索が可能。

2）うまくいっている理由

- 大学の規模が総合大学で、ほぼ同じであること。
- 共通の認識に基づいた大学間の緊密な関係を確立している。
- 学内上層部が協定の設立準備会議に参加し、その後もネットワークに係わりを持つ定例会議が開催されている。
- ワーキンググループが活発でネットワークの問題点を絶えず改善している。
- 研修会が盛んで、加盟館の館員相互の交流が盛んである。

4. 今後の課題と展望

最近の動きとして、従来の相互協力の範囲から、一歩踏み出した協力関係が盛んになっている。そのため、「相互協力」の言葉はあえて使用せず、「コンソーシアム」という名称のところが増えている。

また、利用面を見ても、館内での閲覧から、貸出が可能までへと進展している。規模の異なる機関が共通の理解を持つまでには、加盟館の継続的な取り組みと共通の理念が必要になる。ワーキンググループによる利用条件の改善や、加盟館の館員による研修会や交流会は、館種の異なる機関が、共通の認識によって協力関係を築くために、不可欠であると思われる。

また、相互協力のガイドラインとしては、「国公私立大学図書館間相互貸借に関する協定」の検討がされた。これまでの、文献複写に対する取り扱いから相互貸借までへと改定されたこと。

NACSIS-CATへの参加館が増え、目録データが整

備され、所在情報が充実してきていること。これらのことから、今後、館種を超え、国内だけでなく、海外との相互貸借も今まで以上に行われることが予想される。運用については、各館の状況によって異なるが、共通の取り扱いについては、整備していく必要があると思われる。

国立の大学図書館間で行われている料金の相殺制度は､相互協力業務の煩雑さを軽減するに効果的である。私立大学の場合は各大学の会計処理の状況が異なるため、支払いが煩雑になってしまう。そこで、このような事務処理が軽減される目的で、「文献複写・現物貸借料金相殺のためのNACSIS-ILLユーザー会」が発足され、現在36機関（平成12年10月1日現在）の参加館によって運営されている。多摩アカデミック・コンソーシアムでは、加盟館内での文献複写料金の無料化を実施している。

支払いの煩雑さを解消するためにこのことは注目できる点である。複写料金の無料化までとはいかなくても、複写料金の支払方法には何らかの工夫の余地があるのではないかと思われる。

さらに、今後冊子体で出版されていないオンライン・データベースの全文データに対するILLの対応について考える必要が出てくるであろう。また、資料の高騰により、複数館でオンライン・データベースを共同契約し利用者へ提供するなど、新たな対応が考えられる。

図書館として利用者に対して、通信技術が変化しつづける中で、どのようなILLのサービスが望ましいのか状況に応じて、的確にとらえる必要がある。

分科会

第1分科会…相互利用

共通閲覧証の今後について、参加者の意見交換を中心に研修を行った。

現状としては、ほとんどの大学で共通閲覧証が使われていない。宣伝が足りないというような意見も出たが、共通閲覧証のもつ意義についても考えられ、紹介状を書く手間を省くだけという意見もあった｡そして、この研修会で以下の提案がなされた。

- SALA加盟館であれば、学生証のみで入館を許可してはどうか？
- 最終的にはSALA加盟館であれば、加盟館内での館外貸出しを認めたい。
- 館外貸出しには、現在の共通閲覧証を利用してはどうか？
- 貸出をした場合、郵送での返却はどうか？

しかし、問題点は数多く

- 女子大学への男子学生の入校などの問題（図書館のみならず全学的な問題）
- 学外貸出について、督促をどうするか

などが、挙げられた。

その他には、以下の意見交換があった。

- 学情にどの程度登録しているか
- 電子ジャーナルへの対応について
- NACSIS－ILLユーザー会について（文献複写・現物貸借料金相殺について）
- 情報リテラシー教育について

研修会に対する要望として

- この分科会での意見を、SALAで活かして欲しい。
- 様々な研修会を開催して欲しい。
- 頻繁にSALA加盟での話し合いを持って欲しい。

第2分科会…利用者マナー

文教大学越谷図書館の三瓶氏から、事例として携帯電話や飲み物の持ち込みに対する取り組みについての報告があった。同館では、これらの持ち込みに対するアンケート調査を実施し、その結果を受けて図書館運営委員会等において議論した。そして、図書館内でのマナーについて、利用者の利便性に配慮しつつも館内で学ぼうとする利用者のための環境を最大限確保しようとする新たなルールを定め、利用者の理解と協力を求めることとなった。そのため、館長名で「主として学部学生諸君へ－図書館内での「携帯」・飲み物およびムダ話について」、及び図書館名で「図書館内での携帯電話・飲み物について」という文書を作成した。携帯電話・飲み物については、所定の場所（1F入り口ロビー、B1及び2Fのブラウジングルーム）でのみ許されるとしている。なお、館内で物を食べることについては一切禁止している。

この他、図書の延滞・督促、紛失と弁償、無断持ち出しへの対処、等について報告があり、それに対して各館における状況、事例の紹介があった。

以上

▲第1分科会　相互利用

▼第2分科会　利用者マナー

その後のＳＡＬＡホームページ
－開設から１年を経過して－

淑徳大学みずほ台図書館　杉　田　和　之

いやぁ、いつの間にやら1年経っちゃったんだねぇ。……などと一人感慨に耽っているWebmasterの杉田です。1年前の会報では『SALA専用ホームページの開設』と題してホームページ（以下、HPと略す）を開設するまでの経緯とその内容について書き記したのですが、今回はその後日談……と言うか、経過報告になります。

＊　　＊　　＊

SALAがホスティングサービス（要するにHP領域の間借り）を受けている㈱アドミラルシステムからは毎月、レポートという形で各種のHPアクセス記録が配信されてきます。さて、今回はこのレポート内から2種の記録を抜き出し、その数値を引用して話を進めていきたいと思います。

1.　リクエストページ順位

これはアクセスの多かったページと、そのアクセス件数を記したデータから成るものです。

以下の数値は、2000年4月以降の8ヶ月分を集計した中でのベスト5を現しています。

表紙（Index）……2397件
加盟館・相互協力便覧 ……642件
広報誌 ……446件
お知らせ ……391件
議事録 ……376件

表紙へのアクセス数がズバ抜けているのは当然でしょうが、後は「使える」ページにアクセスが集中しているようです。なお「広報誌」「議事録」は、その目次へのアクセス件数であり、個々のファイルへのアクセス件数を集計したものではありません。

2.　アクセス組織順位

こちらは、HPへアクセスの多かったマシンのIPアドレスを記したものであり、同時にそのアクセス件数が示されています。

ですので、正確に述べると「アクセスIP順位」ということになるのでしょうが、このIPを頼りにJPNIC（日本ネットワークインフォメーションセンター）のWhois Gatewayを利用すると、その所有組織が分かります。

以下はそれを利用し、組織レベルから集計した結果のベスト5です（対象期間は「**1**」と同じく、2000年4月以降の8ヶ月分）。

淑徳大学 ……6716件
goo ……2342件
東京電機大学 ……1595件
獨協大学 ……1018件
埼玉大学 ……562件

検索サイトとして著名な「goo」は夏以降に突然ランクインを始め、気付けば2位にまでなっていました。ちょっと経緯が分かりかねるのですが……。他の組織（というか、大学）に関しては「いかにも」としか言い様のない名前ばかりですね。特に淑徳においては「私」、です。

＊　　＊　　＊

既に「工事中」の項目もなくなり、体裁を整えるという最低限のレベルには到達したと思っています（種々のデータ掲載が遅れ気味なのはご容赦下さいませ）。以降の課題は、このHPをどのように活用していくのか、これに尽きるでしょう。

なお「掲示板」くらいは現在のサービス料金内で用意出来るようなので、これを絡めて活用法を考えていくのも手段の一つではありますよね。

おかげさまで120周年。
120 三省堂創業120年　株式会社 三省堂書店
北東京営業所
〒123-0872 足立区江北7-11-8
Tel 03-3896-7255 Fax 03-3896-6331

活動報告 2000

東京国際大学図書館 空林 徹

●会報第8号の発行（2000年3月31日）

第4号から、発行は3月末日になっている。

表紙は「SALAホームページのトップページ」になっている。

●第13回総会（2000年6月2日）

第13回総会を、大東文化大学東松山校舎60周年記念図書館において開催した。

協議した案件は、(1)平成11年度決算について (2)平成12年度事業計画について (3)平成12年度予算について (4)新幹事館および会計監査館の選出、等であった。総会では、いずれの案件も原案どおり承認した。また、新規加盟館として立教大学武蔵野新座図書館と武蔵野短期大学図書館の2館が承認された。

続いて、大東文化学園理事森崎震二氏による「今なぜ図書館は必要とされるか」の講演があった。総会の参加館及び人数は、24館35名であった。(これ以外に委任状提出12館あり)。総会終了後、図書館を見学し、大学カフェテラスで有志による懇親会を行った。

●研修会（2000年11月28日）

第12回実務担当者研修会を、早稲田大学所沢図書館において開催した。「図書館利用に関する今日的課題」をテーマに、全体会と2つの分科会において研修を実施した。参加館及び人数は23館30名であった。

●その他

SALA通信8号を発行しました。

●幹事会

幹事会は総会で選出された幹事館で構成し、当会の運営に当たっている。2000年度は3回の幹事会を開催した。今年度より代表幹事館が東京国際大学になった。分担は以下のとおり。

代表幹事	東京国際大学図書館
企画	埼玉大学附属図書館
	東京電機大学総合メディアセンター
	東洋大学附属図書館朝霞分館
	明の星女子短期大学図書館
広報	大東文化大学60周年記念図書館
	早稲田大学所沢図書館
	獨協大学図書館
	明の星女子短期大学図書館
相互協力便覧	淑徳大学みずほ台図書館
	十文字学園女子大学情報・資料センター
ホームページ	淑徳大学みずほ台図書館
	十文字学園女子大学情報・資料センター
庶務	城西大学水田記念図書館
会計	文教大学越谷図書館
会計監査	聖学院大学総合図書館

Kinokuniya e-Alert
学術専門書の最新情報を、お客様専用の Web ページで紹介!
http://ealert.kinokuniya.co.jp/kinoentry.html
株式会社 紀伊國屋書店 e-mail: portal@kinokuiya.co.jp

洋書輸入販売
図書館システム
EBSCO Host
ナウカ株式会社
本社 TEL(03)3981-5261

The Times Comprehensive Atlas of the World
Millennium Edition(10th Edition)
ー詳細は小社ホームページをご覧下さいー
好評発売中
総輸入発売元 株式会社 雄松堂書店 http://www.yushodo.co.jp

ESTABLISHED IN 1869
丸善
〔大宮営業部〕
☎(048)641-7221
本社＝東京・日本橋
〒330-0843 大宮市吉敷町1-41 明治生命大宮吉敷町ビル4F

世界に日本文化のネットワーク
日本出版貿易株式会社
Japan Publications Trading Co.
詳しくは http://www.jptco.co.jp
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町1−2−1
TEL：03−3292−3755 FAX：03−3292−8766

徹底した教育と最新の設備で
これからを創る。
情報を最適なメディアで
望月印刷株式会社
http://www.avenue.co.jp/
■本社工場 〒338-0007 与野市円阿弥5-8-36
TEL 048(840)2111代 FAX 048(840)2121
■大宮西口営業所 〒331-0852 大宮市桜木町4-261 オフィス21ビル
TEL 048(641)6651 FAX 048(641)6652

会報 第9号 2001年3月31日発行
編集：明の星女子短期大学図書館、大東文化大学60周年記念図書館、早稲田大学所沢図書館、獨協大学図書館
発行：埼玉県大学・短期大学図書館協議会 http://www.sala.gr.jp/
代表幹事館・事務局
〒350-1197 川越市的場北1-13-1 東京国際大学図書館 ☎0492-32-1111 FAX0492-32-4829
印刷：望月印刷株式会社 〒338-0007 与野市円阿弥5-8-36 ☎048-840-2111 FAX048-840-2121